

令和元年第4回北海道議会定例会〔予算特別委員会・建設部所管〕開催状況

開催年月日 令和元年12月5日(木)
 質問者 共産党 菊地 葉子 委員
 担当部課 建設部土木局道路課

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>一 ボールパークアクセス道路建設等について</p> <p>私は、ボールパークアクセス道路建設等について、お伺いいたします。北海道日本ハムファイターズ本拠地が2023年に北広島市に移転することから、球場へのアクセス向上等を目的に、およそ2.8キロのアクセス道路、仮称「きたひろしま総合運動公園線」を新設する計画が進められています。現在は北広島市道として北広島市において建設準備が進められていますが、北広島市は、道道として整備することを要望し、道は新設に向けて、これまで公共事業評価専門委員会、政策評価委員会が行われてきました。道道認定の議会への提案は、年明け1定を予定しているとのことですが、既に道においても、建設に向けた準備が着々と進行する中で、建設に伴う環境への影響を危惧する声も、地域住民等から出されており、建設を行うにあたって、こうした疑問を払しょくする必要があります。ボールパーク構想を踏まえ、アクセス道路の在り方について順次伺ってまいります。</p> <p>(一) 工事による自然環境への影響について</p> <p>公共事業評価専門委員会の審議で、「自然河川上の行為は全部反対する」との意見が出たほど、建設工事に伴う自然環境への影響の大きさが伺えます。</p> <p>道は工事に伴う自然環境への影響について、どのように認識されているのかお伺いいたします。</p> <p>(二) 国内希少野生動植物種の確認状況について</p> <p>アクセス道路建設地域において、環境省で指定されている「国内希少野生動植物種」は、どの程度確認されたのかお伺いいたします。</p>	<p>○土木局長 白石 俊哉</p> <p>自然環境への影響についてであります。ボールパークへのアクセス道路となります。仮称でございますが、きたひろしま総合運動公園線は、特別天然記念物である野幌原始林の近傍に建設を予定しておりまして、周辺では、希少な動植物の生息も確認されておりますことから、道路整備にあたりましては、必要に応じて保全対策を講じるなど、自然環境に十分に配慮していく必要があると認識しております。</p> <p>○道路課長 佐藤 匡之</p> <p>希少な野生動植物などの確認状況についてであります。アクセス道路は、現在、北広島市の市道であるため、市が環境調査を実施しておりまして、それによると、建設予定地周辺では、「国内希少野生動植物種」に指定されております。オジロワシとクマタカの飛翔が確認されているところでございます。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(三) オオタカの保護に対する認識について</p> <p>オオタカは、生息地の大規模開発などによって、数が激減してきました。「国内希少野生動植物種」として、保護対象となりましたが、2017年に指定解除となっています。環境省が示した「オオタカの国内希少野生動植物種の指定解除にあたっての課題とその保全」によりますと、各種開発行為において、環境保全措置を検討するにあたり「猛禽類保護の進め方」を活用することとしており、指定解除後も対応方法は変わらないことを明記しております。</p> <p>「猛禽類保護の進め方」を踏まえて、調査は行われているのか、オオタカの保護についての認識をお伺いいたします。</p> <p>(四) オオタカに関する環境調査について</p> <p>オオタカの営巣地が確認された場合、「猛禽類保護の進め方」によれば、「繁殖が確認された場合には「行動圏」の調査を実施する」とされております。</p> <p>オオタカの営巣地は、いつ確認されているのか。営巣地が確認されてから、どれだけの期間調査を行い、継続調査はどのような調査を行っているのかについてお伺いいたします。</p> <p>(五) 調査期間の設定について</p> <p>環境省の「猛きん類保護の進め方」によりますと、オオタカの生息の確認、若しくは生息の有無の推定がされた場合、現地調査においては「最低でも2営巣期行うことが望ましい」とされています。環境調査は、当初1年間行われ、今年7月10日に終了しました。現在継続調査が行われているものと承知しておりますが、2営巣期調査を行う場合、来年4月の工事着工までに、調査が終わらないのではないのでしょうか。どのように調査期間を設定するのかお伺いいたします。</p> <p>(六) コウモリを含む哺乳類の調査について</p> <p>今のご答弁ですと、4月までに調査が終わるのかどうかははっきりしない答弁でしたが、関連して、コウモリ類についてもお伺いいたします。</p> <p>当初予定になかった、コウモリの環境調査について、いつ調査が行われたのでしょうか。また、調査の際に環境省がレッドリストに指定するものは、含まれていたのかお伺いいたします。</p>	<p>○土木局長 白石 俊哉</p> <p>オオタカについてであります。オオタカの調査につきましては、北広島市において、環境省が公表している「猛禽類保護の進め方」を参考に、北広島市の環境審議会などにおいて、有識者から意見を伺い、営巣場所の調査などを行っているところでございます。</p> <p>オオタカは、環境省と道のレッドリストに、準絶滅危惧種として指定されている希少な動物でありますことから、道路整備にあたっては、適切な保護が必要と認識しているところでございます。</p> <p>○道路課長 佐藤 匡之</p> <p>オオタカに関する調査についてであります。北広島市では、昨年7月にオオタカが、過去に営巣したと思われる巣を確認し、その後、本年7月まで継続して調査を行っていたところでございます。また、調査の内容につきましては、有識者の意見を伺った上で、目視による営巣を確認する林内踏査や、飛翔を確認するための定点観察などを行っているところと聞いています。</p> <p>○道路課長 佐藤 匡之</p> <p>オオタカの調査期間についてであります。北広島市では、「猛禽類保護の進め方」を参考に、市の環境審議会や、有識者の意見を伺ったうえで、昨年の7月から今年7月にかけて、繁殖期を含む営巣期間の調査を実施したところでございます。</p> <p>さらに、来シーズンの営巣などの状況を確認するための調査を、現在、北広島市が進めておりまして、調査期間につきましては、有識者などから意見を伺いながら、保全措置の検討に必要な期間を、適切に設定すると聞いています。</p> <p>○道路課長 佐藤 匡之</p> <p>コウモリの調査についてであります。北広島市では、本年10月に、アクセス道路の建設予定地周辺で、超音波によります調査を実施し、コウモリの生息を示す反応があったと聞いております。</p> <p>この調査手法では、コウモリの種類の特定には至らないため、レッドリストの希少種などに指定されているコウモリが、生息しているかどうかは不明であると聞いています。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(七) コウモリに関する調査について コウモリ類の生息環境の三大要素は「ねぐら、餌場、飛翔通路」とされています。コウモリ類の多くが「樹洞（じゅどう）」をねぐらの一つとして利用しているといいますが、現在の道路ルートでは、樹木の伐採を伴うことから、伐採予定地内で「ねぐらとしての樹洞」の有無の調査を行うことが必要だと思いますが、調査の必要性についてお伺いいたします。</p> <p>(八) コウモリの保全対策について 来春の調査ということですが、実態調査も終了していない中で、伐採が行われれば、コウモリのねぐらである樹洞を破壊してしまうことにもつながります。開発局所管の夕張シューパロダム、モニタリング部会では、確認された希少コウモリ類への保全対策を実施しております。アクセス道路工事においても、早急にコウモリの保全対策を実施すべきと考えますが、どのように取り組むのかお伺いいたします。</p> <p>(九) 自然環境監視協議会等について 公共事業評価専門委員会で決定された、付帯意見には「自然環境を監視する協議会等を設立し、保全措置の実効性を高めること」とあります。道は付帯意見に示された協議会等を設置するものと考えますが、協議会の構成をどのように考えているのでしょうか。 自然環境を監視する協議会であるならば、地域住民は勿論のこと、自然保護団体の視点・意見も必要です。協議会の構成に、自然保護団体も加えるべきと思いますが、いかがお伺いいたします。</p> <p>(十) 道としての環境保護対策について 現行の道路建設工程のままでは、守られるべき自然環境が破壊されてしまう危険性があることは、公共事業評価専門委員会での議論からも明らかです。アクセス道路完成時期が決まっているが故に、必要な措置が講じられないなどとするはあってはなりません。 道道指定の際には、北広島市の、これまでの環境調査の結果がそのまま引き継がれるものと承知をしておりますが、地域住民や自然保護団体の意見もよく聞いたうえで、道独自の追加調査も行う必要があるのではないのでしょうか。道独自の環境保護対策をどのように取り組むのかお伺いいたします。</p> <p>(指摘) これまでお伺いしてきました。北海道の自然環境への影響が大変大きい工事です。工事着工の時期もせまっております、その中で希少動植物種の保護に関する調査が、適切に行われるのかどうか、知事にもお伺いしたいと思っておりますので、お取りはからいをお願いいたします。</p>	<p>○道路課長 佐藤 匡之 コウモリのねぐらの調査についてであります。北広島市では、来春、超音波によるコウモリの調査を予定しております。その結果を踏まえ、有識者から意見を聞きながら、ねぐらの調査の必要性や手法につきまして、検討を進めていくと聞いています。</p> <p>○道路課長 佐藤 匡之 コウモリの保全対策についてであります。北広島市からは、コウモリに関する調査の結果、保全対策が必要となった際には、有識者や地域の自然保護団体から意見を伺い、適切な措置を検討すると聞いています。</p> <p>○土木局長 白石 俊哉 自然環境を監視する協議会等についてであります。現在、北広島市では、アクセス道路の整備に関する環境調査や保全対策の検討のため、有識者や地域の自然保護団体と意見交換を実施していると承知しております。 道が設置する自然環境を監視する協議会につきましても、北広島市の意見交換会を参考に、市や関係団体等と連携いたしまして、構成メンバーを選定していくと考えています。</p> <p>○建設部長 小林 敏克 道路整備についてであります。北広島市では、自然環境に配慮いたしました、アクセス道路の整備に向けて、有識者や地域の自然保護団体から、意見を聞きながら、調査手法や保全対策などの検討を進めていると承知しています。 道では、これまでも道路整備にあたりましては、地域のご意見などを伺うとともに、必要に応じまして、環境調査や保全対策を行うなど、自然環境に配慮しながら、事業を進めてきているところでございまして、今後とも、こうした考えのもと、道路整備を進めてまいりたいと考えています。以上でございます。</p>